

DEBUT 首長

山形県南陽市長 白岩 孝夫氏

第3子以降に特化し支援 市独自の豪雨対策も実施

南陽市 山形県の南東部に位置する人口約3万3000人の街。温泉街がある赤湯地区と熊野大社の門前町として栄えた宮内地区がある。市の表玄関は山形新幹線が停車する赤湯駅。県内でも有数のブドウの産地で、山の斜面にはブドウ畑が広がる。

——「3人っ子政策」を公約にした。真意は何か。

わが家は小学6年を筆頭に5人の子供がいるが、残念ながら市内で子供がいる世帯のうち1人か2人の世帯は85%もある。合計特殊出生率が2.07を超えないと人口は減るので、このままだと南陽市の人口も減少する。2人でやめてしまうのは経済的な理由が大きい。だから第3子以降に特化して支援する。

妊婦検診はもとより妊娠前の検診も補助の対象に加える。ゼロ歳から就学前までの保育料と小1から中3まで給食費も無料にする。あくまでもカンフル剤で根治療法ではない。とはいえ未婚や子供のいない世帯に子供を産めとは言えないので、子供のいる世帯にもう1人を働き掛けるほうが現実的な対応だろう。

——活性化のためには交流人口の増加も欠かせない。

市内を訪れる観光客は100万人以上いたが、東日本大震災で大台を割った。東北中央道の南陽高畠インターチェンジ(IC)―山形上山IC間が2018年度に開通する予定。南陽バイパスから隣の長井市まで延びる地域高規格道路「梨郷道路」も昨年着工した。通過点にならないように南陽高畠IC近くに道の駅を整備したい。市内には赤湯温泉や4つのワイナリー、由緒ある熊野大社もある。それらをアピールして観光客に足を止めてもらう。

——全国初の大型木造耐火構造の新文化会館が建設中だが、見直す考えはあるか。

設計変更は考えていないが、せっかく建てる以上、市民に親しまれる施設にしなければだめだ。日常的に市民の文化活動や奉仕活動などに使ってもらう利用率の向上をめざす。内部には木育博物館の機能も備わっているが、さらに遊具などを設置して子育て世帯が安心して屋内で遊べるように環境を整備していきたい。

運営のあり方も見直す。当初



しらいわ・たかお 1969年山形県南陽市生まれ。92年東北学院大文学部卒。2012年に南陽市議会議員に初当選。7月の市長選で初当選。趣味は絵本の読み聞かせ。45歳。

は市の直営になるだろうが、状況を見極めたうえで維持管理費を低減できるいろいろな手法を考えたい。例えば、指定管理者制度の利用なども候補になるだろう。

——2年連続で豪雨水害に見舞われた。対策は急務だ。

選挙戦の最中に市内の2つの川があふれ、大きな被害が出た。「行政は何をしていたんだ」という市民からの批判は大きかった。当選後、国土交通省の太田昭宏大臣に河川の改修を要望した。さらに国や山形県と連携を図るため、「7・9豪雨災害復興合同連絡会議」を立ち上げた。

あふれた吉野川と織機川は1級河川で、本来は県が管理すべきもの。現在、県は河川改修計画の見直しを進めており、決まり次第、護岸整備やしゅんせつ、橋の改修工事に入る。もちろん国や県任せにせず、市も独自財源を使って最優先で取り組んでいく。

(聞き手は

山形支局長 高橋 敬治)